



アボカド記念日

10月14日

Sudden Fiction Project

高階経啓
hirotakashina

10月14日のおはなし「アボカド記念日」

「お名宛てはいかがいたしましょうか」

「“上”で結構です」

「“上様”で。かしこまりました。」

ペンを走らせる彼女を見ながら、唐突に声をかけなきゃと思う。たったいま会ったばかりなのに、ずっと彼女に会いたかったとでもいうような、不思議な感覚に襲われる。いつものことだ。電車に乗るたび同じ車両の女性にたちまち恋をしてしまう。ぼくはそういう男だ。同じことを繰り返してしまう。

「あの……」

「はい」

* * *

仕事を上げる彼女を待って一緒に食事に行くことになる。ぼくのお気に入りのテックス・メックスの店に連れていくと、彼女はタコスもメキシコ料理も大好きだという。トルティーヤチップスが山ほど運ばれてきて、ブリトーにナチョスにビーフエンチラーダス、それにベーコンとほうれん草のサラダ。彼女はドスエキスを頼み、ぼくはテカテを頼み、ボトルを軽く当てて乾杯する。アボカドが苦手だという彼女に、騙されたと思ってアボカド・ディップをひとくち試してみればと勧めると、ほんとだ、おいしい、と目を輝かす。アボカド・デビューだね。ほんと、アボカド記念日。アボカド記念日おめでとう、乾杯。乾杯！

こんな幸運なことがあるのだろうか。あまりにあっけなくあまりにすんなりと物事が進むので、かえって素直に喜べない。少し不安がある。いや。この不安はそれだけではない。幸運にたじろいでいるだけではない。この感じは何だろう。罨にはめられたような感じ？ いやいや。彼女が何かたくらんでいるというのではない。こんなに気持ちよく微笑み、何でもない会話をとんでもなく楽しく感じさせてくれる。ではこの不安感は何だろう。何かを忘れているような。大事なことを何か忘れているような。ぼくの心の奥深くで小さく警報が鳴り続けている。

* * *

「お客様？ お客様？」

思いがけず酔いが回っていたらしく、気がつくときレジの前で立ったまま意識が飛んでいたらしい。レジの女性に何度も声をかけられていたようだ。我に返るとぼくはあわてて言う。

「お、おいくらでしたっけ？」

レジの女性が明るく微笑みながら金額を言う。かわいい。その微笑みにひきこまれそうになる。

「9450円になります」

「9450円」おやおや。一人で飲み食いしたにしては大きな金額だ。だから立ったまま眠るほど酔ってしまうんだ。心の中で苦笑いしながら1万円札を出す。「ろ、りょう、領収書をお願いします」

言えてない。レジの彼女がまた笑う。バカにしているんじゃない。気持ちのいい微笑みだ。

「お名宛てはいかがいたしましょうか」

「“上”で結構です」

「“上様”で。かしこまりました」

ペンを走らせる彼女を見ながら、唐突に声をかけなきゃと思う。たったいま会ったばかりなのに、ずっと彼女に会いたかったとでもいうような、不思議な感覚に襲われる。いつものことだ。電車に乗るたび同じ車両の女性にたちまち恋をしてしまう。ぼくはそういう男だ。同じことを繰り返してしまう。

(「領収書」 ordered by kyouko-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブックログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただけると大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできるのですが、面と向かって星をつけるのはひよっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上げてまいりましょう。

アボカド記念日

<http://p.booklog.jp/book/35132>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35132>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/35132>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.